



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月5日

上場会社名 グンゼ株式会社 上場取引所 東
コード番号 3002 URL <https://www.gunze.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐口 敏康
問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 中嶋 順子 TEL 06-6348-1314
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	99,843	△3.0	5,641	△11.5	5,639	△13.4	1,324	△70.2
2025年3月期第3四半期	102,916	1.4	6,377	3.4	6,508	7.0	4,441	11.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 978百万円(△75.1%) 2025年3月期第3四半期 3,925百万円(△43.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 40.86	円 銭 40.78
2025年3月期第3四半期	133.48	133.17

(注) 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円 161,733	百万円 113,326	% 68.9	円 銭 3,482.98
2025年3月期	159,677	120,982	74.6	3,667.20

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 111,432百万円 2025年3月期 119,074百万円

(注) 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 390.00	円 銭 390.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)				216.00	216.00

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
2. 2025年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 289円00銭 特別配当 101円00銭
2026年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 147円00銭 特別配当 69円00銭
3. 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2025年3月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	133,000	△3.0	6,400	△19.2	6,300	△23.0	1,600	△74.5	49.51	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社、除外 2社 (社名) 津山グンゼ株式会社、Gunze Electronics USA Corp.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	34,587,032株	2025年3月期	34,587,032株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	2,593,763株	2025年3月期	2,116,804株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	32,414,360株	2025年3月期3Q	33,274,750株

(注) 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は：有（任意）
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更・修正再表示)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(重要な後発事象)	11
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(当四半期の経営成績)

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）における日本経済は、賃上げによる所得環境の改善が一部で見られたものの、物価上昇に加え、光熱費や燃料費の高止まりが家計への負担となり、消費者の節約志向や買い控えの動きは継続しました。また、海外経済の減速や地政学リスクの高まりにより輸出の伸び悩みが見られたほか、不安定な為替環境も相まって、当社を取り巻く事業環境は引き続き先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループでは、今期よりスタートした中期経営計画「VISION 2030 stage2」において、「持続可能な事業基盤づくりを進めグローバルに選ばれ続ける会社となる」ために、この期間を「創りかえる3年間」と定め、機能ソリューション、メディカル事業の強化・拡大、アパレル、ライフクリエイト事業の構造改革に向けたスタートを切りました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は以下のとおりであります。

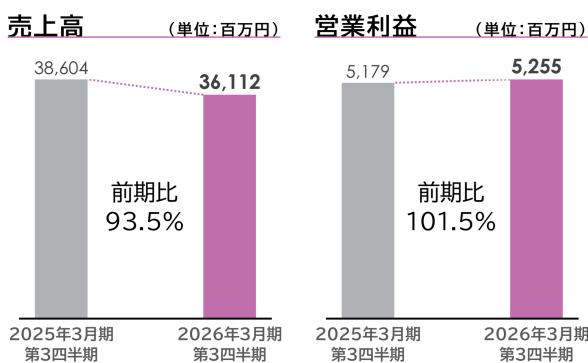
売上高	99,843百万円	(前年同期比 3.0%減)
営業利益	5,641百万円	(前年同期比 11.5%減)
経常利益	5,639百万円	(前年同期比 13.4%減)
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,324百万円	(前年同期比 70.2%減)

売上高は、前期末に事業終息した電子部品の売上影響や、プラスチックフィルムの海外での売上低迷、アパレルの量販店での販売減少などにより、3,072百万円の減収となりました。営業利益は、メディカル事業の固定費等の増加、アパレル事業の販売数量減少とコスト増加影響などを受け、736百万円の減益、経常利益は868百万円の減益となりました。また、第1四半期に計上したアパレル事業における事業構造改善費用の影響などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,116百万円の減益となりました。

(セグメント別の概況)

<機能ソリューション事業>

機能ソリューション事業の売上高は36,112百万円（前年同期比6.5%減）、営業利益は5,255百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

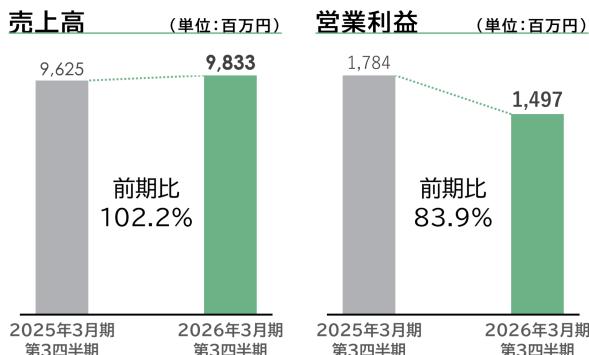


[主要な変動要因]

- ・プラスチックフィルムは、国内が環境対応新製品の展開などにより数量増となりましたが、海外市場における消費停滞や低価格化の影響を受けました。
- ・エンジニアリングプラスチックスは、半導体市場向け製品がサプライチェーンにおける在庫調整影響を受けました。
- ・電子部品事業の終息により、売上高は約24億円減少しましたが、営業利益は約2億円改善しました。

<メディカル事業>

メディカル事業の売上高は9,833百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は1,497百万円（前年同期比16.1%減）となりました。

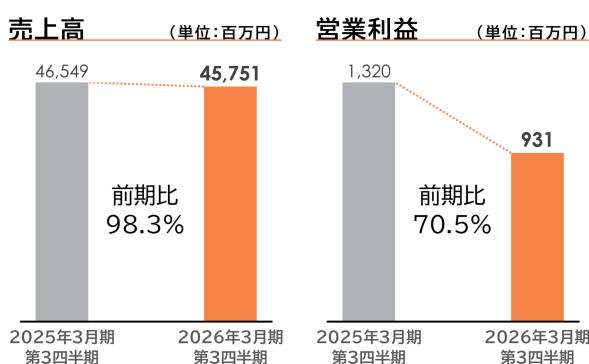


[主要な変動要因]

- ・国内は、癒着防止材、骨接合材など吸収性製品の拡販が進みました。
- ・中国販売は、高額医療規制や、日中関係悪化にもなる中国国産品の優先採用加速による影響を受けました。
- ・事業拡大に向けた設備投資や人員増などの固定費増加影響を受けました。

<アパレル事業>

アパレル事業の売上高は45,751百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は931百万円（前年同期比29.5%減）となりました。

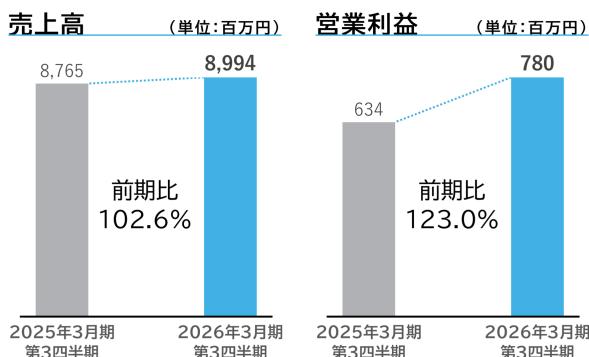


[主要な変動要因]

- ・年初に公表した事業構造改革は順調に進捗しましたが、在庫縮減にともなる生産数量減少による原価高や人件費などのコスト増加影響を受けました。
- ・衣料品関連のD2Cルートは、アセドロンやレディスインナーの差別化商品を中心に拡販が進ましたが、量販店などの既存ルートは、売り場の縮小、消費者の買い控え影響に加え、暖冬により季節商品が低迷しました。

<ライフクリエイト事業>

ライフクリエイト事業の売上高は8,994百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は780百万円（前年同期比23.0%増）となりました。



[主要な変動要因]

- ・不動産関連は、商業施設のリニューアル効果により来館者が増加するなど、好調に推移しました。
- ・スポーツクラブは、既存店の売上回復と不採算店舗削減により損益が改善しました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は161,733百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,056百万円増加しました。主な増加要因は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加3,004百万円、エンジニアリングプラスチックスでの新工場建設等による建物及び構築物（純額）の増加2,915百万円であり、主な減少要因は、商品及び製品の減少2,636百万円、有形固定資産その他（純額）の減少2,211百万円（建設仮勘定等）であります。

負債は48,407百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,712百万円増加しました。主な増加要因は、コマーシャル・ペーパーを含む長短借入金の増加10,727百万円、事業構造改善引当金の増加1,563百万円であり、主な減少要因は、流動負債その他の減少1,450百万円（未払金等）であります。

純資産は113,326百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,655百万円減少しました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加1,324百万円であり、主な減少要因は、配当による減少6,331百万円、自己株式の取得による減少2,061百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期第3四半期連結累計期間における業績及び今後の見通しを踏まえ、2026年3月期の連結業績予想を修正いたしました。

プラスチックフィルムは国内事業が堅調も、海外市場の消費停滞や低価格化影響が想定を上回り、エンジニアリングプラスチックスは半導体市場の回復が遅れる見通しです。また、メディカルは国内新商品の薬事承認の遅れや、中国販売での高額医療規制、日中関係悪化にともなう中国国産品の優先採用加速による影響の長期化が懸念され、アパレルは年初に公表した事業構造改革が順調に進捗していますが、消費者の買い控え影響に加え、暖冬により季節商品が低迷し、売上高は前回公表の業績予想を下回る見通しです。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、主に売上高の減少にともない、前回公表の業績予想を下回る見通しとなりました。

なお、2026年3月期の配当予想につきましては変更ございません。2025年5月14日に公表の通り1株当たり216円の配当を実施する予定です。

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 140,000	百万円 8,500	百万円 8,300	百万円 2,800	円 銭 86.19
今回修正予想（B）	133,000	6,400	6,300	1,600	49.51
増減額（B-A）	△7,000	△2,100	△2,000	△1,200	—
増減率（%）	△5.0%	△24.7%	△24.1%	△42.9%	—
（ご参考）前期実績（2025年3月期）	137,117	7,921	8,180	6,279	189.70

（注）2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,541	10,907
受取手形、売掛金及び契約資産	25,015	28,020
商品及び製品	24,233	21,596
仕掛品	7,606	7,617
原材料及び貯蔵品	6,631	6,818
その他	3,969	4,326
貸倒引当金	△23	△28
流動資産合計	77,974	79,258
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	36,783	39,698
機械装置及び運搬具（純額）	13,147	13,139
土地	10,205	9,971
その他（純額）	7,628	5,417
有形固定資産合計	67,764	68,226
無形固定資産	1,786	1,444
投資その他の資産		
投資有価証券	3,924	3,900
その他	8,340	9,016
貸倒引当金	△114	△113
投資その他の資産合計	12,151	12,803
固定資産合計	81,702	82,475
資産合計	159,677	161,733

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,138	7,336
短期借入金	577	974
コマーシャル・ペーパー	–	12,600
1年内返済予定の長期借入金	2,611	4,537
未払法人税等	349	1,116
賞与引当金	1,499	490
事業構造改善引当金	96	1,659
その他	11,278	9,827
流動負債合計	24,551	38,541
固定負債		
長期借入金	5,668	1,472
退職給付に係る負債	4,133	4,071
長期預り敷金保証金	3,935	3,942
その他	406	378
固定負債合計	14,143	9,865
負債合計	38,694	48,407
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,071	26,071
資本剰余金	6,560	6,579
利益剰余金	85,297	80,011
自己株式	△5,273	△7,271
株主資本合計	112,656	105,390
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	883	1,094
繰延ヘッジ損益	88	480
土地再評価差額金	△13	△13
為替換算調整勘定	5,194	4,334
退職給付に係る調整累計額	264	145
その他の包括利益累計額合計	6,418	6,041
新株予約権	110	102
非支配株主持分	1,796	1,792
純資産合計	120,982	113,326
負債純資産合計	159,677	161,733

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	102,916	99,843
売上原価	70,321	67,529
売上総利益	32,594	32,314
販売費及び一般管理費	26,216	26,672
営業利益	6,377	5,641
営業外収益		
受取利息	50	33
受取配当金	233	119
固定資産賃貸料	332	411
為替差益	-	0
その他	103	108
営業外収益合計	719	674
営業外費用		
支払利息	59	52
固定資産賃貸費用	319	398
為替差損	15	-
持分法による投資損失	-	25
その他	194	200
営業外費用合計	588	676
経常利益	6,508	5,639
特別利益		
固定資産売却益	664	310
投資有価証券売却益	1,072	29
その他	135	-
特別利益合計	1,872	339
特別損失		
固定資産除売却損	210	250
事業構造改善費用	1,154	3,244
その他	50	134
特別損失合計	1,415	3,628
税金等調整前四半期純利益	6,965	2,349
法人税等	2,494	963
四半期純利益	4,471	1,386
非支配株主に帰属する四半期純利益	29	61
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,441	1,324

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	4,471	1,386
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△772	210
繰延ヘッジ損益	83	391
為替換算調整勘定	246	△925
退職給付に係る調整額	△104	△118
持分法適用会社に対する持分相当額	-	33
その他の包括利益合計	△546	△407
四半期包括利益	3,925	978
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,845	948
非支配株主に係る四半期包括利益	79	30

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(在外子会社等の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社等の収益及び費用は、従来、当該在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度の期首より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、グローバル展開により在外子会社の重要性が今後さらに高まると見込まれるため、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を緩和し、会計期間を通じて発生する在外子会社の損益をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(会計上の見積りの変更・修正再表示)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機能ソリューション事業	メディカル事業	アパレル事業	ライフクリエイト事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	38,153	9,624	46,410	8,727	102,916	—	102,916
セグメント間の内部 売上高又は振替高	450	1	138	38	628	△628	—
計	38,604	9,625	46,549	8,765	103,544	△628	102,916
セグメント利益	5,179	1,784	1,320	634	8,919	△2,541	6,377

(注) 1 セグメント利益の調整額△2,541百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機能ソリューション事業	メディカル事業	アパレル事業	ライフクリエイト事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	35,436	9,833	45,614	8,959	99,843	—	99,843
セグメント間の内部 売上高又は振替高	675	0	136	35	848	△848	—
計	36,112	9,833	45,751	8,994	100,692	△848	99,843
セグメント利益	5,255	1,497	931	780	8,465	△2,823	5,641

(注) 1 セグメント利益の調整額△2,823百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	5,022百万円	5,387百万円
のれんの償却額	33	33

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月5日

グンゼ株式会社
取締役会 御中

協立監査法人

大阪事務所

代表社員 公認会計士 朝田 潔
業務執行社員

代表社員 公認会計士 手島 達哉
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているグンゼ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。